

読む・知る・つながる大体大マガジン

# OUIHS

Vol.230 2023.10.06

JOURNAL

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES

〈巻頭特集〉

運動部活動改革  
本学が社会をリード

〈旬な大体大生〉

パラ水泳世界選手権4位

宇津木美都さん

UTSUGI MIKUNI

大体大



大阪体育大学

OSAKA UNIVERSITY OF HEALTH AND SPORT SCIENCES



# 旬な大体大生

パラ水泳世界選手権 4位

う つ ぎ み くに  
**宇津木 美都**さん

教育学部3年・水上競技部女子



インタビュー動画

## 〈宇津木選手インタビュー〉

——パラ水泳世界選手権を振り返って。

今回、100m平泳ぎで4位入賞できたことはすごくうれしく思うし、今まで勝てなかった選手に勝てての4位だったので、順位を見た時はすごくうれしかった。

——パリパラリンピック代表切符の獲得に向けて。

パリでは専門の100m平泳ぎでメダルを狙っているの、それ相当のタイムで選考会では泳ぎたい。

——卒業後の目標は。

29歳の時にブリスベン（豪州）パラリンピックが来るので、そこまでは（現役を）続けたい。自分自身、スポーツがすごく好きなのでそこまでは水泳を続けたい。もし水泳を辞めたとしても教員を目指してしっかり勉強しているので、小学校の教員になってしっかり子どもたちに伝えることを伝えたい。

7～8月に英国マンチェスターで開催されたパラ水泳世界選手権の100m平泳ぎ（SB8）で4位入賞。タイムは1分27秒88で東京パラリンピック決勝から大きく短縮した。

生まれた時から右腕のひじから先がなく、中学から本格的に競泳に取り組み、中学2年で50m平泳ぎアジア新記録を樹立。その後スランプに苦しみ「泳ぐのが嫌になった」こともあったというが、教員になるという将来の夢と競技を両立するため大阪体育大学に進学し、浜上洋平監督との二人三脚のトレーニングで復活。2021年、東京パラリンピックでは100m平泳ぎで6位に入賞した。

東京大会後は小学校での講演に引っ張りだこで、約10校でスポーツの楽しさ、夢の大切さ、障がいについて子どもたちに語りかけている。

## contents

### 01 旬な大体大生

02 SPORTECに出展  
東京ビッグサイトで本学PR

03 巻頭特集  
運動部活動改革、本学が社会をリード

### 05 NEWS

- 1 夏のオープンキャンパス 来場者30%増
- 2 キャリアフェスタ4年ぶり対面開催
- 3 修了式・卒業式を挙げる
- 4 バスケットボール部女子 新人インカレ初代女王
- 5 バスケ・三次が3×3 U18女子W杯銅メダル
- 6 ハンドボール五輪女子アジア予選で  
パブリックビューイング
- 7 なぎなた部がインカレ2冠
- 8 ポッチャ・内田に大阪スポーツ大賞
- 9 木戸・古山がサッカーJ1内定

### 09 大体大PEOPLE

内海 徹・ミズノ株式会社中国販売課

### 11 EVENT

- 1 野外実習 各地で実施
- 2 教育学部FD研修会
- 3 「摂泉会」代議員懇親会
- 4 教育後援会役員会を開催

13 コラム 窓

14 コラム ポーシャー

# SPORTECに出展

## 東京ビッグサイトに4万人来場



ブースで大学の諸活動や大学院を紹介

日本最大規模のスポーツ・健康産業に関する国際的な総合展示会「SPORTEC2023」が8月2〜4日、東京ビッグサイトで開催された。本学は2年連続でブースを出展した。スポルテックは本学の原田宗彦学長（日本スポーツツーリズム推進機構代表理事）が実行委員長を務めている。スポーツ関係企業や自治体、スポーツコミッション、団体など約6000団体が出展し、約4万人が来場した。大学は、本学をはじめ東京大学、早稲田大学、立命館大学など14大学ほどが参加した。

2日の開会式典では、原田実行委員長が「たくさんの方の交流を通じて新しいイノベーションビジネスが生まれることを祈念しています」とあいさつし、来賓とともにテープカットに臨んだ。

本学のブースでは、大学院スポーツ科学研究科、運動部活動改革貢献事業、社会貢献事業、スポーツ科学サポート事業、大学スポーツ振興事業について大型ポスターで紹介。ビジネスパーソンやメディア関係者、研究者が続々と詰めかけた。

また、原田学長は2日、「スポーツ産業拡大施策」と題した基調講演で、遠藤利明・自由民主党総務会長、牧原秀樹・自由民主党スポーツ立国調査会スポーツDXPT座長、桃井謙祐・スポーツ庁参事官（民間スポーツ担当）とともに登壇。今後、テクノロジーの活用でスポーツがさらにエンターテインメント産業化していくこと、eスポーツがメジャースポーツ化していくこと、スポーツによるまちづくりとスポーツツーリズムの発展が必要であることなどを解説した。

また、本学は主催セミナーを2回、実施した。2日に「トップアスリートのWell-beingを育む心理サポート」を開催し、土屋裕睦教授（スポーツ心理学）、菅生貴之教授（メンタルトレーニング）、小菅萌准教授（スポーツ心理学）が講演した。4日は「スポーツ系大学のリスキングで何を学ぶのか？」をテーマに、藤本淳也教授（スポーツマーケティング）、浜田拓教授・大学院スポーツ科学研究科長（運動生理学）、篠田ゆりさん（アディダス・ジャパン勤務、大学院博士前期課程2年）が意見を交わした。



開会式典で実行委員長としてあいさつする原田宗彦学長



東京ビッグサイト

### 主催セミナー

#### トップアスリートの Well-beingを育む心理サポート



### 主催セミナー

#### スポーツ系大学のリスキングで 何を学ぶのか？



# 運動部活動改革、本学が社会をリード

中学などの運動部活動が大きな転機を迎えている。教員の労働環境の改善などのために週末の地域移行が求められる一方で、学校現場は指導者不足に苦しむ。社会的課題とも言える運動部活動改革に、全国に先駆けて取り組んでいるのが大阪体育大学だ。2019、20年度にスポーツ庁から運動部活動改革プラン事業を受託し、運動部活動改革プロジェクトを始動。学生を部活動指導員として育成する「グッドコーチ養成セミナー」、社会人を対象に部活動指導に必要な知識や技能を学ぶ「運動部活動指導認定プログラム」を2本柱に、人材育成や課題解決に取り組む。

本学の活動は、井出庸生文部科学副大臣が本学を視察し、多数のメディアで全国的に報道されるなど大きな注目を集めている。



グッドコーチ養成セミナーで講義を聴く学生

## グッドコーチ養成セミナー

グッドコーチ養成セミナーは2021年度、単位認定対象外講座として開設された。受講生は、独自に開発された教育プログラムでコーチングの基礎、スポーツ倫理、事故対応などを学び、修了者には修了証が発行される。

また、本学は各自治体などからの部活動指導の要望を受けて受講生らに伝え、指導競技や条件がマッチした学生を各自治体に紹介している。21、22年度だけでも学生41名が大阪府、兵庫県の26中学の野球、サッカー、バスケットボール、ハンドボールなど幅広い部などで部活動指導員などとして指導にあたった。

スポーツ指導者としての学生の育成と、学校現場と学生のニーズのマッチングをシステムティックに進める本学の取り組みは全国でも極めて珍しい。大学基準協会の大学評価では、「学生のスポーツ指導者としての実践的な学びにつながる」とも、中学校等の教員の負担減少及び地域の学校教育における部活動の持続可能な運営体制の構築に貢献している」として、大学の長所であると明記された。受講生の大半は将来、中学・高校の保健体育科教員を目指す学生。部活動指導は学校現場を体験できるインターンシップとしても有益だ。学校側も競技経験が乏しい顧問も多い中で、生徒が高いレベルで技術指導を受けるメリットがある。

## ソフトバンク社との連携協定

本学は6月29日、ソフトバンク株式会社と「スポーツ指導におけるICT活用」に関する連携協定を締結した。

相互に連携・協力して新たなスポーツ指導法の開発を促進しながら、学校・地域スポーツの推進に寄与することが目的で、本学の学生がソフトバンク社のAIを活用したスポーツ練習アプリ「AIスマートコーチ」、遠隔でコーチから動画等でレッスンを受ける「スマートコーチ」を利用した部活動指導を実施する。

締結式・記者会見では、本学の神崎浩副学長、ソフトバンク社CSR本部の池田昌人本部長が協定書を交換した。

協定締結を受けて、ICTを活用した運動部活動の公開実証実験が8月22日、大阪府貝塚市立第五中学校で実施され、教育学部2年の吉岡悠人さんと、男子バスケットボール部員約10人、顧問が参加。アプリを使って、その場で撮影したシュートフォームを手本の動画と比較しながら生徒同士で意見を出し合ったほか、別室に待機した吉岡さんが生徒の動画を見てコメントするなどの遠隔指導の実験に取り組んだ。



シュートの映像をチェックする生徒たち



ソフトバンク社との連携協定締結式

## 運動部活動指導認定プログラム

「運動部活動指導認定プログラム」は今年度からスタート。前期は5〜9月に実施され、会社員、教員、理学療法士、団体職員、弁護士など20〜69歳、北海道から沖縄県の59名が参加した。

運動部活動指導認定プログラムでは、主に社会人（現教員を含む）を対象に運動部活動指導に携わる人材を養成する。春期、秋期の2期制で、オンデマンド56時間、ハイフレックス10時間のカリキュラムを修了すると、本学が発行する修了証に加え、学校教育法に基づく「履修証明書」が交付されるほか、受講者は日本スポーツ協会（JSPC）公認コーチングアシスタント資格を取得できる。

カリキュラムは、グッドコーチ養成セミナーをベースに開発された。5月13日に対面・オンライン併用のハイフレックスで開催された開講式では、第1講の「部活動の意義と位置付け」、第2講の「生徒指導に係る対応」について、



運動部活動指導認定プログラムを受講する参加者

本学運動部活動改革プロジェクトのチームリーダー・中尾豊喜教授が講義し、対面、オンラインそれぞれの参加者が「部活動の位置づけ」「部則の策定」などのテーマについてグループごとに議論し、結果を発表した。

京都市から参加した男性（61）は「地域で硬式テニスの指導をしていて、中学・高校生を受け入れる際に何に注意したらいいか知りたくて参加しました。講座では、多様な競技の方と意見交換できてとても参考になりました」と話していた。

## メディアから高い関心



中尾豊喜教授を取材するNHKクルー

本学の改革に向けた取り組みは、2020年3月にいち早く日本経済新聞が紹介するなどメディアの関心は高く、今年1、5月にNHKニュース「おはよう関西」、「おはよう日本」で「学校から地域へ移行 変わる中学校の部活動」と題した特集などで本学を詳細に取り上げた。読売新聞なども報じた。ソフトバンク社との連携協定は、朝日新聞が「学生コーチ アプリで部活お助け」、毎日新聞が「スポーツは距離を超越できるか 大体大とソフトバンク連携」の見出しで報道。運動部活動指導認定プログラムは、日本経済新聞、読売テレビが最終授業の模様を紹介するなど、メディアからの取材が相次いでいる。

## 井出副文科相が本学視察



本学を視察し教員と議論する井出庸生文部科学副大臣（左）

井出庸生文部科学副大臣が8月6日、本学を視察し、運動部活動改革プロジェクトについて意見交換した。

運動部活動改革プロジェクトリーダーの体育学部・成瀬雅巳教授、滝沢洋平講師が、各プロジェクトについて説明。井出副大臣から多くの質問があり、予定の時間を超えて活発な議論となった。井出副大臣は「地域のスポーツや子どもたちの運動を巡る課題に、大阪体育大学が非常に先進的な取り組みをしていたことが伝わりました。ソフトバンクとの連携も大きな話題になると思います。文部科学省としては、この課題に志を高く持って取り組む一方で、国民の負担は低くて済むように勉強していきたい」と感想を述べた。

## 夏のオープンキャンパス開催

来場者30%増、学生チームが運営



多数の高校生・保護者が参加したオープンキャンパス

夏のオープンキャンパスが熊取キャンパスで開催され、昨年を約30%上回る多数の高校生や保護者が詰めかけた。

7月22日（土）、8月4日（金）、5日（土）、11日（金祝）の4日間。このほか春のオープンキャンパスとして3月25日（土）に開催したほか、2月の浪商学園100周年記念スポーツキャンパスで個別相談ブースを設置。また、ソロオープンキャンパスも5回実施した。



体験授業「体脂肪を燃やすには」

運営の中心を担ったのは学生チーム「Bowcan's」(ボーキャンズ)。約20人が受付や誘導、説明会での司会などを担当した。

メイン会場のL号館では、学長・副学長によるウェルカムスピーチ、体育学部(来年4月からスポーツ科学部)、教育学部両学部長による大学案内、キャリア説明などが行われた。体験授業も盛況。スポーツ科学部は「体脂肪を燃やすには」「緊張とパフォーマンス」「あなたの知らないスポーツマーケティングの世界」「大学で『走り』を学ぶワケ」など、教育学部は「パラスポーツから共生社会を考えよう」「体育授業での球技の教え方…ゲームデザインの理論



運営を担当した学生スタッフ「Bowcan's」

から学ぶ」「タブレットを活用した楽しく知的に学ぶ授業づくり」など高校生が興味を持ちそうなテーマのミニ授業が行われ、教員が分かりやすく語りかけた。

キャンパスツアーは、「Bowcan's」の学生スタッフの案内でプロチーム並の規模を誇るS&Cルームやワールプールなど最先端の設備がそろったATルーム、各競技施設などを見学した。また、今年のオープンキャンパスはクラブ見学が例年以上に充実し、多数のクラブが開催時間中にキャンパスで練習。参加者は希望のクラブの練習を見学していた。

オープンキャンパスの様子は読売テレビ、関西テレビでも紹介された。



クラブの練習を見学する参加者

# キャリアフェスタ対面で 4年ぶり 学生が熱心に質問



真剣にメモをとる学生

就職活動が本格化する時期を目前に控えた3年生を対象にした就職活動支援イベント「キャリアフェスタ」が、8月7日、8日の2日間、開催された。

このイベントは、「自分の知らない世界を知る」ことが目的。昨年までは新型コロナウイルスの感染防止対策として、オンラインで実施されたが、4年ぶりの対面開催（一部オンライン）となった。

学生は、クルビズのリクルートスタイルで、体育学部スポーツ教育学科、健康・スポーツマネジメント学科、教育学部教育学科ごとに分かれて学部長あいさつ、説明を受けた後、参加企業・団体・学校ごとに用意された教室（ブース）を巡回。1日4ブース、2日間で8企業・団体の話を聞いた。

各ブースでは、企業や団体の採用担当者やビジネスの第一線で活躍している方らが採用に関することや、企業概要などを説明。参加した学生たちは真剣な面持ちで耳を傾け、ノートをとっていた。

説明後、各ブースでは企業・団体の担当者とフリートークの時間が設けられ、学生たちは熱心に質問をしていた。

就職活動が本格化する時期を目前に控えた3年生を対象にした就職活動支援イベント「キャリアフェスタ」が、8月7日、8日の2日間、開催された。

このイベントは、「自分の知らない世界を知る」ことが目的。昨年までは新型コロナウイルスの感染防止対策として、オンラインで実施されたが、4年ぶりの対面開催（一部オンライン）となった。



企業の担当者から話を聴く学生

◆参加企業・団体◆  
アイ・ケイ・ケイ、関西テレビ放送、鶴見製作所、ニプロ、三井住友銀行、ミスノ、リゾートトラスト、和泉学園・泉南学寮（法務教官）、青年海外協力隊（JICA）、大阪体育大学大学院、ホリプロ、アルペングループ、北川鉄工所、良品計画、日東工器、警視庁（警察官）、東京消防庁（消防官）、熊取町役場（行政）、高槻市立高槻小学校（小学校教員）、大阪市立梅香中学校（中学校教員）、京都府立大江高等学校（高等学校教員）、神戸市立青陽須磨支援学校（特別支援学校教員）

16名は名前を読み上げられ、一人一人、学位記・卒業証書が授与された。原田宗彦学長は「福沢諭吉氏は『世の中で一番尊いことは人のために奉仕し決して恩に着せないこと』と語り、プロ野球の野村克也監督は『金を残すは三流、名を残すは二流、人を残すは一流』という言葉を残しています。大阪体育大学は『不断の努力により智・徳・体を修め社会に奉仕する』を建学の精神とし、二人の言葉は本学が育てる人材の理想像と一致しています。

9月の修了・卒業者を対象とする大阪体育大学大学院修了式・大阪体育大学卒業式が9月15日、中央棟7階大会議室で行われた。

修了生・卒業生は、大学院生は博士後期課程1名、前期課程1名、学部生は体育学部13名、教育学部1名で計16名。



## 修了式・卒業式を挙行 16名に学位記・卒業証書

皆さんはどうか大阪体育大学での学びを社会のため、人のために最大限に活用し、卒業生として誇りを胸に前に向かって進んでほしい」と式辞を述べた。

# 新人インカレ初代女王

## バスケットボール部女子 升田にMVP

第1回全日本大学バスケットボール新人戦の決勝が7月16日、東京で行われ、女子は本学が64―63で筑波大学を降し、初代女王となった。

大会は1、2年生のチームで学生ナンバーワンを争う初めての大会。本学は決勝トーナメント準々決勝で立教大学に76―72、準決勝で白鷗大学に71―56で勝ち、決勝は筑波大学と対戦した。



第3クォーター終了まで42―50とリードされていたが、三次真歩選手（体育1年）、アイエビドゥン・グレイス選手（体育1年）らの得点で追い上げ、残り5秒で升田木花選手（体育2年）が3ポイントシュートを決めて逆転した。

大会の最優秀選手には、主将を務めた升田選手、優秀選手には三次選手、グレイス選手、アシスト王に三次選手が輝いた。升田選手は「個人的にも全国の舞台で戦ったことがなくて、戦えるのかという不安があったが、1、2年生だけでできる試合を全力で楽しもう、自分たちがやってきたことを出し切ろうという思いで大会に入って、チームの目標である日本一を達成できて嬉しい」と話している。

## 三次が3×3 U18 W杯銅 バスケットボール部女子



バスケットボール部女子の三次真歩選手（体育学部1年）がFIBA 3×3 U18ワールドカップに日本代表として出場し、銅メダルを獲得。優秀選手に選出された。

大会は8月30日から9月3日までハンガリーで開催された。日本は予選プールCで4戦全勝し、決勝トーナメントは準々決勝でラトビアに17―15で勝利。準決勝は米国に20―21で敗れたが、3位決定戦でリトアニアを21―11で降した。

三次選手は得点ランキングで出場選手中2位タイの46得点を挙げて優秀選手に選出された。

三次選手は帰国後、村上なおみ監督とともに原田宗彦学長を表敬訪問し、戦績を報告。「今後のオリンピック出場もめざしたい」とさらなる飛躍を誓った。



## PVで楠本JAPAN応援 ハンドボール女子五輪予選

ハンドボール・パリ五輪女子アジア予選のパブリックビューイングが8月23日、L201で開催された。女子日本代表は本学の楠本繁生教授が率い、選手22名中、本学卒業生15人と体育学部3年の石川空選手が参加。「楠本ジャパン」は予選最終日の23日、広島市の会場で3戦全勝の韓国とパリ五輪出場権をかけて対戦した。

L201では、ハンドボール部男女の部員やバスケットボール部、大阪体育大学浪商高校のハンドボール部員、地元の熊取町の方々約150人がハリセンなど応援グッズを手に応援。得点を挙げるたびに大きな歓声が上がった。広島市の会場では原田宗彦学長らが試合を見守った。

日本は24―25と1点差で敗れ、自国開催出場の東京五輪を除けば48年ぶりとなる自力での五輪出場は、世界選手権、世界最終予選に持ち越しとなったが、参加学生は一体となって広島にエールを送り続けた。

## なぎなた部インカレ2冠 演技で河野・阿部、個人で阿部

第62回全日本学生なぎなた選手権大会が8月6日、長野県佐久市の長野県立武道館で開催され、本学は演技競技で河野葵選手(体育3年)・阿部真優選手(体育4年)チームが優勝。演技は昨年決勝で鹿屋体育大学に敗れて5連覇を逃したが、本年度は鹿屋体育大学との体育大学対決を制し、頂点に返り咲いた。

また、女子個人も阿部選手が実力をいかんなく発揮し、昨年度の優勝者を決勝で破り優勝。令和3年度に続く2年ぶりの2冠を達成した。

なぎなた部は6月11日の第42回関西学生なぎなた選手権大会でも、エースの阿部選手を教育実習で欠く中、演技(有段の部)で、川口知咲季選手(体育1年)・河野選手チームが、決勝で神戸松蔭女子学院大学を破って、本学勢として2年ぶりの優勝を果たし、団体の部も3位に入賞。昨年は部員不足に苦しんだが、今季は男子1人を含む1年生5人が加入し、部は活気を増している。



木戸柀摩選手  
(体育学部3年)



大阪体育大学サッカー部男子のMF・木戸柀摩選手(体育学部3年)とFW・古山兼悟選手(同)が、2025年シーズンからのJリーグ加入が内定した。複数の3年生の加入内定は珍しい。

木戸選手は、2年生だった今年3月、J1の北海道コンサドーレ札幌との仮契約が発表された。北海道出身で北海学園札幌高校卒。北海道コンサドーレ札幌U-18でプレーした。2022年にU-19日本代表候補、2023年にはU-20全日本大学選抜に選ばれた。

木戸選手は大学に所属したままJリーグの公式試合の出場が可能になる特別指定選手に登録され、YBCルヴァンカップですでに出場を果たしている。関西学生サッカーリーグでは、アシストランキング(9月2日現在)で5位(6アシスト)につけている。

木戸選手は内定発表で「まずは夢であったプロのスタートラインに立てたことを嬉しく思います。今まで



大阪府は9月21日、令和5年度大阪スポーツ賞の受賞者を発表し、本学アダプテッド・スポーツ部の内田峻介選手(教育学部3年)を大阪スポーツ大賞(個人3、団体2)に選出した。

内田選手は、大賞の一部門の「国際的若しくは全国的規模のスポーツ競技会において年間を通じて最も府民に喜びと誇りを与えた個人若しくは団体」に与えられる優秀選手特別賞に個人でた

## 内田に大阪スポーツ大賞 ボッチャ世界選手権金など評価

だひとり選ばれ、競技選手個人としては最高の賞となった。

大阪府は選出理由について、「2022年ボッチャ世界選手権(ブラジル・リオデジャネイロ)BC4男子優勝、同選手権Pair BC4位、第24回日本ボッチャ選手権大会BC4男子優勝。東京2020パラリンピック開会式において、聖火台に点火する最終ランナーを務めた」としている。

## 木戸・古山がJ1内定 サッカー部男子 とともに3年生

自分を支えてくれた家族、仲間、指導者の方々に感謝します。そして、大阪体育大学の顔として責任を持ってプレーしていきます」とコメントしている。

古山選手は9月、J1のセレッソ大阪への加入内定と特別指定選手の登録が発表された。

大阪府出身で、島根・立正大学浜南高校卒。関西学生サッカーリーグの2022年度得点王(19得点)で、今年度の得点ランキング(9月2日現在)も15得点でトップを走る。

古山選手は内定発表で「これまで多くの人に助けられたサッカー人生だったので、自分に関わっていただいた多くの方々に感謝の気持ちでいっぱいです。また、セレッソ大阪でプロとしてのキャリアをスタートすることができ、大変嬉しく思います」とコメントしている。



古山兼悟選手 (体育学部3年)

## 野球部マネジャーとして全日本出場 人生初のうれし涙が今に生きる



ミズノ大阪本社

ミズノ株式会社中国販売課

### 内海 徹さん

内海 徹（うつみ・とおる）  
1988年6月29日生まれ、35歳。大阪体育大学健康福祉学部卒。  
硬式野球部では3年からマネジャー。4年春、全日本大学野球選手権大会出場。2011年ミズノ入社。野球などを担当するダイヤモンドスポーツ事業部営業販促部などでプロ野球巨人、ソフトバンクを担当。2016年からアマチュア野球担当となり、2023年4月からエリア営業本部中四国営業部中国販売課勤務。

——**野球部での一番の思い出は。**  
4年春の全日本大学選手権出場です。1〜3年は出場できず、チームを変えるために、同級生で時にはけんかもし、一丸となりました。大体大の野

——**野球部で学んだことは。**  
3年生からマネジャーとして活動しました。初めての裏方でしたが、大学生活の中で一番濃い2年間だったと思います。選手の時グラウンドのことがすべてでしたが、マネジャーとして学外やOBの方などグラウンドの外と接したことで、社会で通用する術を学んだと思います。マネジャー時代の経験は今でも生きています。

——**東洋大姫路高校3年の夏、甲子園8強。大阪体育大学に進んだ理由は。**  
高校3年で、関西で高いレベルで野球を続けたいと思っていた時、大阪体育大学が全日本大学選手権で優勝しました。顧問の先生が大体大OBだった縁もあって、進学を決めました。

野球部4年の時、マネジャーとして全日本大学野球選手権大会に出場した時のうれし涙を糧に、ミズノ株式会社で営業活動に全力投球。プロ野球、現在はアマチュア野球を担当する。小学生から続けた野球に今も携わること喜びを感じ、裏方の経験が社会人になって生きていくと語る。

——**就職先にミズノを選んだ理由は。**  
当時、野球部を担当していたミズノの方が大学の先輩でした。自分自身、卒業後も野球に携わりたいたいと考えていて、その先輩に相談したのが縁で、ミズノに入社しました。

——**ミズノではどのような仕事を。**  
2011年に入社し、最初に野球などを担当するダイヤモンドスポーツ事業部に配属され、プロ野球を担当しました。その後、九州支社でもプロ野球を担当。2016年からアマチュア野球を担当する部署に移り、2019年からは

球部は学生主体で物事を決めるのが伝統で、どうしたら勝てるのか裏方として考えた末、監督に訴えて、春の宮崎キャンプを取りやめ、東京に遠征して高いレベルの社会人や大学と試合を組みました。その成果がリーグ優勝につながり、自分が描いたものがかたちになったという達成感を感じました。野球人生の中で一番の喜びで、初めて心からうれし涙を流しました。

営業本部で地域のスポーツ店や野球チームを回る部署で活動しています。

— プロ野球担当の具体的な仕事は。

東京では巨人、福岡ではソフトバンクを担当しました。アドバイザリー契約を結んでいる選手への用具提供や契約を結ぶためのプロモーション活動に取り組み、ソフトバンクの今宮健太選手と契約することができました。ソフトバンクにはユニホームも提供していました。

— アマチュア野球担当としてはどのような仕事を。

対象チームは社会人、大学、高校が中心で、チームを直接訪問して関係を



ミズノスポーツロジギャラリー

作りながら、「内海」という人間を知っていたら、ミズノの製品を採用して

もらい、売り上げにつなげることが主な活動です。プロ野球担当は、アドバイザリー契約が取れたとしても、売り手などの数字はすぐには出ませんが、アマチュア担当は数字がはつきり出ます。また、チームとの距離感もアマチュアの方が近く、いかに「ミズノの内海」ではなく、「内海単体」として見てもらえるような人間関係を作っているかを考えています。

— 普段の仕事では、どのような1日を送っていますか。

今、大阪から担当エリアの岡山に出張して仕事をしています。午前中に岡山入りし、スポーツ店を午前中に1店、午後1、2店訪ねて売れている商品や在庫のことなど店の方と話をします。夕方から高校、大学のチームを数チーム回り、新しい商品の説明などを行っています。

— 仕事をしていて、一番充実感を感じることは。

私自身、小学生から大学生まで野球を続けましたが、社会人になってからも野球に携わって野球の第一線を見て、その中で、スポーツメーカーとして商談をさせてもらえるのは大きな喜びです。ミズノに入社したきっかけも野球を続けていたから。これからも野球に携わりながら、より良い商品を世の中に普及させる活動をしていきたい。

— 大学でのマネジャーの経験は今、どのように役立っていますか。

選手の人間関係は、チーム内が中心になりますが、マネジャーは名刺を持って外部の方と接し交渉するなど、社会人に近い仕事が多くあります。例えば、自分の携帯で他大学にオーブン戦を申し込みましたが、チームの日程を自分で作っていくのは、選手ではなかなかないこと。携帯に登録された相手とは社会人になってからも付き合いがあり、自分にとって財産になっています。

— 学生にアドバイスを。

私は野球部を通して悔し涙もうれし涙も流しました。大学4年の時、神宮に出場した喜びとそれまで出られなかった悔しさが今の自分の糧になっています。皆さんも学生の時に自分が熱中できることを、勉強でもスポーツでもいいのでやり遂げてほしい。何かをやり遂げた糧を持って、社会人生活を向かえてもらえたらと思います。



ミズノの創業者・水野利八氏のパネルと

# 野外実習 各地で実施

## 臨海・キャンプ・海洋スポーツ・夏季海洋

野外活動実習が7月以降、各地で相次ぎ実施された。

野外活動実習は、体育学部では選択必修科目。自然環境の中で集団を作り、非日常的な環境で活動を共有することによって得られる学びを重視している。

学生は臨海、キャンプ、海洋スポーツ、キャンプ、スキー、ゴルフの中から一つを選択する。教育学部では、夏季と冬季の野外活動実習があり、教育の場としての自然の知見を深めることを目的としている。



キャンプ実習



臨海実習



キャンプ実習  
動画ニュース



臨海実習  
動画ニュース

### 〈臨海実習〉

7月4～7日の3泊4日、和歌山県白浜町の白良浜などで約40人が参加し実施された。実習では、初日は初歩の水泳指導から始まり、2～3日目に学生はライフセービングとダイビングを体験するプログラムに参加した。最終日は伝統の遠泳で、ライフセービング部が見守る中、全員が声を掛け合い、励まし合いながら45分を泳ぎ切った。

### 〈キャンプ実習〉

8月22～25日に兵庫県美方郡香美町の美方高原自然の家「とちのき村」で約100人が4ユニット16班に分かれて様々なアクティビティに取り組んだ。キャンプ実習では、「ツリークライミング」、「A S E (Action Socialization Experience) 課題解決型アクティビティ」、「ロゲイニング」、「シャワークライミング」などのグループに分かれて活動。昨年までは感染症対策として別の宿泊施設で実施していたが、今年は4年ぶりにテント泊となった。



教育学部・野外活動実習



海洋スポーツキャンプ実習  
動画ニュース



海洋スポーツキャンプ実習

### 〈海洋スポーツキャンプ実習〉

9月11～18日に3泊4日ずつ前後期に分かれ、徳島県・Y M C A 阿南国際海洋センターで行われ、合計約150人が参加。学生は教員の指導で、ウィンドサーフィン、カヌー、ヨット、立ってパドルを漕ぐサップ、カッターなどで沖に出たほか、無人島での釣り・シュノーケリング、ウオークラリーに取り組み、夜はキャンプファイアーも実施された。

### 〈教育学部・野外活動実習(夏季)〉

教育学部の野外活動実習(夏季)は8月28～30日の2泊3日、大阪府泉南郡岬町の大阪府立青少年海洋センターで約30人が参加して実施された。学生は4班に分かれカッター、OPPヨット、カヌーなどのマリンプログラムに取り組んだほか、ミニオリエンテーリングなどのフィールドプログラムにも取り組み、サンドアートではビーチに大阪体育大学のマークなどを描いた。

# 教育学部 FD 研修会 iPad の授業活用策を探る



教育学部のFD(ファカルティ・デベロップメント)研修会が7月19日に開かれ、岡崎均教授(ICT教育)が「教育学部におけるiPadの活用の在り方とGIGAスクールの現状について」をテーマに講義した。

岡崎教授はiPadと共有型アプリ「ロイロノート・スクール」の活用事例として、ゼミでの協働の論文比較・検討や社会科学概論Ⅱでの少人数によるマイクロ・ティーチングを例に紹介した。

続いて参加した教員らが1人1台ずつiPadを使い、「大学教育における『生成AI』活用の在り方を探る」と題して模擬授業を実施。教員らは、岡崎教授から端末



に届いたピンクのカードに生成AI活用の「課題」、青のカードに「可能性」を書いて各グループのメンバーと送り合い、議論。グループの代表が意見をまとめたカードを岡崎教授に送り、全員が各グループのカードの一覧を共有しながら議論を深めた。

また、全国の児童・生徒に1人1台の端末を提供する文部科学省の「GIGAスクール構想」について、全国の小中学校での取り組み事例を紹介した。

岡崎教授は「ICTを通じて生徒・学生間の意見の『共有』はとも容易で活発になるが、『共有』のあとに何を学ぶのか、何を理解するのかを考えることが重要」と話し、「ICTを使う学校と使わない学校、使う教師と使わない教師の二極化が進む。学校単位の組織的取り組みが不可欠」と強調した。

## 「摂国会」代議員懇親会 4年ぶり開催 活躍選手に激励金

大阪体育大学同窓会「摂国会」の代議員懇親会が7月1日、大阪市北区の帝国ホテル大阪で4年ぶりに開催された。

懇親会は代議員会に引き続き行われ、摂国会の林憲治郎副会長が「コロナ禍が収束し4年ぶりに開催できましたことに感謝申し上げます。3年間の空白を埋め、それぞれの立場での横糸と先輩・後輩の経糸をつないで情報共有していただけたらと思います」と開式の辞を述べた。

野田賢治浪商学園理事長が「今年から支部会も本格的に順次開催されると聞いています。同窓会とコミュニケーションを取り合い、支部会におうかがいしてお話していきます」、原田宗彦学長が「同窓会のご支援をいただき、密に協力をしながらいい大学を作っていきます」とあいさつしました。

続いて、2022年デフリンピック陸上男子棒高跳び金メダルの北谷宏人選手(教育学部3年)、同男子バレーボール8位の寺井捺貴選手(体育学部4年)、2022年世界パラ水泳選手権大会100m平泳ぎSB8クラス6位の宇津木美都選手(教育学部3年)、2022年体操FIGワールドチャレンジジャップソングバトヘイ大会つり輪3位・平行棒5位の田部壮一郎選手(体育学部3年)に学生激励金が授与された。



その後、前副学長の淵本隆文理事の乾杯の発声で参加者は歓談し、浦里征樹理事が閉会の辞を述べた。

# 教育後援会役員会を開催 父母らの代表が予算・事業計画案を承認

令和5年度の大阪体育大学教育後援会役員会が6月17日、大会議室で開催され、学生の父母等代表27人と原田宗彦学長、浪商学園・野田賢治理事長をはじめ、法人や大学の幹部・職員が出席した。

冒頭に大田政信会長が「これまで新型コロナウイルス対策やリモート授業など常に学生のことを第一に考えて対応していただき感謝したい。今年度、役員として初めて入学式に参加したが、大学が前

に向かって進んでいることを確認できた」とあいさつした。原田学長、野田理事長のあいさつに続いて議事に移り、令和4年度の事業報告、決算が報告され、拍手で承認された。

その後、令和5年度役員の出選に移り、大谷哲也副会長が新会長に推薦され、議事を引き継いだ。

大阪体育大学教育後援会 令和5年度収入支出予算書

収入の部 (単位:円)

費目	予算額
会費収入	33,468,000
前年度繰越金	19,373,326
利息	400
学生徴収分	200,000
特別会計より繰入	0
その他雑収入	0
計	53,041,726

支出の部 (単位:円)

費目	予算額
(1)学生援助費	26,600,000
①課外活動	2,000,000
②大学祭	500,000
③学生生活支援	8,000,000
④傷害治療援助	7,000,000
⑤就職振興	5,000,000
⑥卒業行事	4,000,000
⑦災害見舞金	100,000
(2)教育援助費	5,000,000
①クラス活動	1,500,000
②学会発表	500,000
③文化厚生	3,000,000
(3)課外活動特別援助	5,000,000
(4)事業費	4,100,000
①会報費	3,000,000
②慶弔記念費	1,100,000
(5)運営費	1,660,000
①会議費	160,000
②事務費	1,500,000
予備費	10,681,726
特別経常費	0
特別会計繰出金	0
次年度繰越金	0
計	53,041,726

大阪体育大学教育後援会 令和4年度収入支出決算書

収入の部 (単位:円)

費目	決算額
会費収入	33,312,000
前年度繰越金	25,260,860
利息	335
学生徴収分	142,740
計	58,715,935

支出の部 (単位:円)

費目	決算額
(1)学生助成費	0
①課外活動	0
②大学祭	500,000
③学生生活支援	6,314,303
④傷害治療援助	4,462,887
⑤就職振興	2,676,871
⑥卒業行事	2,920,742
⑦災害見舞金	0
(2)教育援助費	667,685
①クラス活動	667,685
②学会発表	220,000
③文化厚生	3,972,760
(3)課外活動特別援助	3,000,000
(4)事業費	2,881,021
①会報費	2,881,021
②慶弔記念費	291,000
(5)運営費	132,724
①会議費	132,724
②事務費	1,302,616
(6)特別会計繰出金	10,000,000
特別経常費	0
予備費	0
次年度繰越金	19,373,326
計	58,715,935

特別会計(特別対策基金)収入支出予算書 (単位:円)

項目	収入	支出
前年度からの繰入金	60,394,542	0
定期利息	900	0
今年度繰入金	0	0
今年度繰出金	0	0
次年度繰越金	0	60,395,442
計	60,395,442	60,395,442

特別会計(特別対策基金)収入支出決算書 (単位:円)

項目	収入	支出
前年度繰越金	50,393,689	0
今年度繰入金	10,000,000	0
今年度繰出金	0	0
定期利息	853	0
次年度繰越金	0	60,394,542
計	60,394,542	60,394,542



教育後援会役員会



大谷哲也新会長

続いて令和5年度の事業計画案、予算案が審議され、課外活動や学生生活支援、傷害治療、就職振興活動、卒業行事への援助などを盛り込んだ事業計画、予算案が承認された。

- ◇新役員のうち会長、副会長、
- ◇会計監査は次の皆様◇
- ▽会長 大谷哲也
- ▽副会長 宇野修、菅谷暢之
- ▽会計監査 西岡潤哉、花見明子 (敬称略)



◆私が本学に入職したばかりの4年前、中尾豊喜教授から「いいテーマがあるよ」と教

えられ、初めてプレスリリースをしたのが、本学で実施する運動部活動改革プラン公開シンポジウムの案内でした。取材した日本経済新聞が2020年3月、社会面で大きく掲載し、以後、メディアの取材は数えきれないほどです。中学校など指導の現場にメディアと一緒に向かい、メディアの取材を受ける中尾教授ら関係の先生のご苦勞には頭が下がります。

◆グッドコーチ養成セミナー、運動部活動指導認定プログラム、ソフトバンク社との提携など、本学は次々に新たなプロジェクトを打ち出し、運動部活動改革の最前線を走り、国も注目しています。巻頭特集では、そんな本学の活動を詳報しました。今、日本の運動部活動は大きな転機を迎えています。子どもたちのスポーツをする権利、好きなスポーツを選ぶ権利を守るため、社会が本学に期待するところは極めて大です。

◆今号から表紙を一新し、本学でキラリと活躍する学生の皆さんの写真を掲載することにしました。トップバッターは、パラ水泳に全力投球の宇津木美都さん(教育学部3年)です。動画のQRコードもつけていますので、合わせてご覧いただけたら幸いです。

【大坪康巳】

# 野良犬は絶滅危惧種だった



コラム **ボーシヤ**

名誉教授 和田隆夫

1970年代後半、私の家には一匹の柴犬がいた。この犬、飼い主よりよほど氏素性がはっきりしており、血統書によれば「国松号」という大仰な名前をもっていた。もっとも家人は誰もその名前で呼ばなかった。

生後2ヶ月でわが家に来た日、さっそく家族会議が開かれ、名前はどうか話しあった。この協議の最中、母は突然「あき、なにか食べる？」と言い出し、私は父・妹と目があい、三人の口がひらくと同時に名前はきまった。

犬は、縄文時代から人間と生活を共にしていたという学説がある。長いつきあいであるが、最近までほとんど価値のないものだった。柳田国男は『明治大正史 世相篇』（東洋文庫）第四章で「日本では久しい後まで村の犬というのがあって（みんなで飼育していた）、従って（売買される物ではないので）無価値であった。」（括弧は筆者）と書いている。それが、近世になり飼い犬がはやりだした頃から、所有者のいない「村の犬」は野良犬として野犬のカテゴリーに組み込まれていった。しかし野良犬（つまり「村の犬」）は人の居住地で人間に依存しながら生きている犬であり、自然の中で野生化して生きている野犬とはあきらかに違う。この点を無視して、私たちは所有者がいるかどうかで犬を二分するようになった。

この二分化を加速させる大きな要因は、狂犬病対策という側面とともに、純血種の犬に価値が生まれていったことがある。1928年に日本犬保存会が設立され、1936年には柴犬が国の天然記念物に指定されている。また同年に「石号」（雄犬）が最初に血統登録された。「コロ号」と交配して生まれたのが「アカ号」で、その孫犬が「中号」である。この「中号」こそ柴犬の中興の祖と称される名犬である。あきは、中号の子孫になるが、そこはやはり「氏より育ち」が前面にでるのが、熊と戦う古武士のような柴犬には成長せず、浪速ののんびりした性格をもつ芝犬に育っていった。自分のえさを野良犬に食べられていても横で寝ているような犬だった。

大阪でも当時はまだ「村の犬」転じての「野良犬」はよく見かけられた。とくにあきと散歩すると、どうしてなのかわからないが、どこからともなくあらわれる。そんな時代の話である。

家業が卸売市場の魚屋で、学生の頃、いつも土用丑や年末は店を手伝っていた。そんなあるとき早朝の商いが終わり、喧騒が止み、人がまばらになった頃、店の前を老いた犬がとぼとぼと歩いていた。飼い主が見当たらないので、母にどこの犬かと訊ねると、その犬は客が少なくなった時分を見計らってえさをもらいにやってくる野良犬であることがわかった。白い体毛から「シロ」と呼ばれていた。まったく吠えないし、もちろん噛みつきたりしない。人や商売に迷惑をかけない限りその犬は排除されることはない。犬もそのことをわかまえている。これこそ「村の犬」だ。そういえば学校にもそんな犬がいた記憶がある。

あきの大好きな野良犬に「やさしい犬」がいた。若い頃はさぞ立派な犬だったろうと思わせる、人生を知り抜いた古老の趣のある老犬だ。彼は児童公園に住んでいた。あきはこの犬のまわりを飛び跳ね、鼻をこすり合わせる。淡い交際だがいつも確実にのみを移されながら喜んでた。この「やさしい犬」には犬相の悪い二匹の子分がいた。「チンピラ犬」と呼んでいた。他の犬にすぐ噛みつくような犬だったが、やさしい犬には信服しているらしくいつもそばにいた。もちろんあきには敵意をむき出しにするが、こん

な犬に対してもあきは尻尾を振っていた。私や「やさしい犬」がいるためか、とにかく唸るだけだった。ところがある日、妹が散歩に連れ出したとき、あきはずいぶん「チンピラ犬」の一匹に咬まれた。傷は軽症だった。それからもときおり三匹と出会ったが、どちらも近づくことはなかった。

また「さびしい犬」と呼んでいた野良犬がいた。地下鉄の高架下を尻尾を下げていつも徘徊していた。あきと出会うと避けるようにして通路の端っこを歩く。こんな犬はほかにいなかった。柴犬の上がった尻尾とさびしい犬の下がった尻尾の対比がさびしかった。

ある日、「さびしい犬」は駅前の靴屋のおじさんからパンをもらっていた。聞けば近所の人食べ物をやっているようだ。もちろん誰かの飼い犬というわけではない。

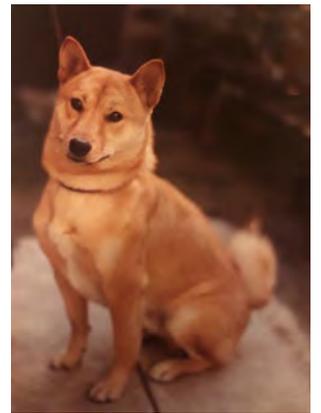
ある時、急にあきの尻尾が「さびしい犬」のように下がり、小便が出なくなった。医者連れて行くと尿道炎と言われ、管を使って尿を抜いた。その帰り、駅前の街路樹の下に、小さな汚れた犬小屋が置かれていた。そこから「さびしい犬」が顔を出した。近所の人が必要なくなった犬小屋をこの犬にやったのだろう。いつも出会いを避ける犬が小屋から出てきた。尻尾がやや上がり水平になっている。一生懸命上げようとして水平になっているように思った。尻尾を下げたあきは、その前を歩いている。少し歩いたところで、「さびしい犬」が強く一度ほえた。

あきの病気はよくなり、医者を変えて、ようやく前立腺癌とわかった。病気のために散歩の道順がかわり、「さびしい犬」とめったに出会わなくなり、たまに出会っても、尻尾を下げた二匹は静かにすれ違っていた。そうして数ヶ月ほどして「さびしい犬」は小さな犬小屋の中で死んだ。あきは、前立腺癌の発見が遅れたために手術ができないまま半年ほどして死んだ。

シロも「やさしい犬」も「チンピラ犬」も、もちろん「さびしい犬」もみんな「村の犬」だった。もうそんな犬はいないだろう。

あの時代の野良犬は絶滅危惧種だったと思う。絶滅の原因を考えてみると、まず思い浮かぶのは街の形の変化や公衆衛生の進展である。しかしもっと大きい原因は、生き物に対する私たちの心の変容ではないだろうか。公園で鳥や昆虫をみてもその所有者を考えることはない。しかし犬に対しては、人間が所有しているかどうかという二分論で区別して、人に所有されない犬は無価値な野犬として無くしてしまう。この考え方こそ、近代（モダン）の人間の自由と平等という理念と合理性という原理に由来するものである。この理念と原理は対立して機能するという見方はあるが、「村の犬」に対しては、両者は相まって絶滅の方向に私たちを導いた。どうして「村の犬」には、奈良公園の鹿のような別の選択（alternative）がなかったのだろうか。

野良猫、野鳥、虫、雑草と呼ばれる植物など、私たちが気づいていない都会の絶滅危惧種たちは今日も精一杯ぎりぎりのところで生きている。





**本物**を学び、極める

## 大阪体育大学

---

【大学院】

- スポーツ科学研究科  
博士（前期・後期）課程

---

【体育学部】

- スポーツ教育学科
- 健康・スポーツマネジメント学科

【教育学部】

- 教育学科

---

大学事務局

庶務部、教学部、入試部、広報室  
キャリア支援部、大学院事務室

大学附置施設等

図書館、スポーツ局、社会貢献センター  
情報処理センター  
スポーツ科学センター  
国際交流センター、学習支援室

---

<https://www.ouhs.jp/>

OUHS ジャーナル 2023年(令和5年)10月6日(金)

発行所：大阪体育大学 広報室 発行責任者 大坪康巳 協力：教育後援会・学友会  
大阪府泉南郡熊取町朝代台 1-1 電話(072)453-7021 FAX(072)453-8818